

月曜寸言

ソ連科学アカデミーの招待でモスクワに来て数日が過ぎた。冬のモスクワへは約一年ぶり。今夜は零下二十度の寒さだが、

夜十一時までクレムリン大会堂でクリンカ作のオペラ「イワン・スサーニン」を観ていた

ためか、寒さのことはすっかり忘れていた。ポリシヨイ劇団が演ずるこのオペラはポーランドのモスクワ侵略を打ち砕く幾国劇で、舞台装置も大変豪華なものだったし、主役のレシェーチンのバリトン、息子役のグリゴ

リエヴァのソプラノも素晴らしいが、ポーランド貴族をクレムリンの広場でやっつけるエピソードの場面などを見ていて、ポーランド人が観たらやはりいい気持ちはいないだろうと思わずにはおれなかった。ポーランド

といえは、史上に有名な三たびにわたる「ポーランド分割」で知られるように、ロシアの方こそ侵略者であって、ポーランドはいつも制圧されてばかりい

モスクワのオペラ

中島 信雄

野も有名である。

そしてオペラは、そのような

感じをありのままに表現しているのが大部分がロシア人である。このオペラを観てもう一つ不思議に思ったことは、ロシアの敵・ポーランドの貴族たちの宮殿での踊り(第二幕)が実に美しく上品で律動的であって、観る観客は、ロシア兵の勝利を手を打って喜ぶ反面、ポーランドの貴族や兵士の華麗な姿を羨や

客もうっとりしていたし、兵士

たちもロシア兵が粗野で荒々し

いのにポーランド兵の方がいか

にもスマートなことであった。

ポーランドの舞踏がいかに美しいものかよく知られて

いるし、ロシアの兵隊たちの粗

野も有名である。

そしてオペラは、そのような

するソ連の立ちおくれ、日本社

会の能率にたいする自国の非能

率を自覚しはじめている。こう

した自覚をテコにしてはじめて

て、今夜のオペラに見られたよ

うなソ連芸術の素晴らしい達成と

ソ連の社会生活における非能

率、鈍感、官僚性など、ソ連芸

術にみられる繊細な感受性から

すればまったく信じられないほ

どのギャップが徐々に埋められ

てゆくのかもしれない。

ソ連は、そのようなギャップ

が埋められたときはじめて世界

の先進国に堂々と仲間入りする

ことができるのだと思う。

(モスクワにて、二月十二日

記、東外大助教)